

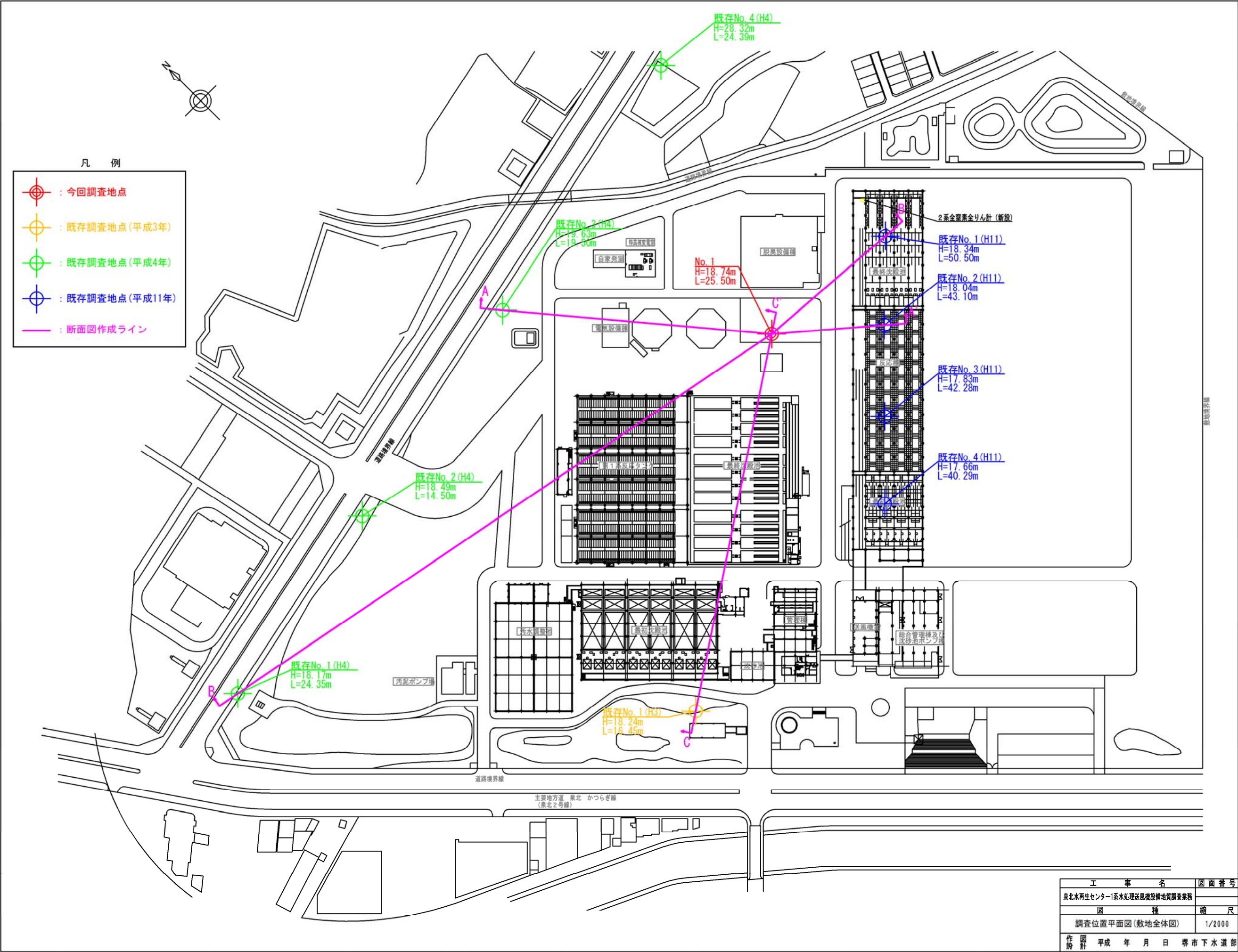


図 1.1 調査位置平面図(敷地全体図) S=1:2000

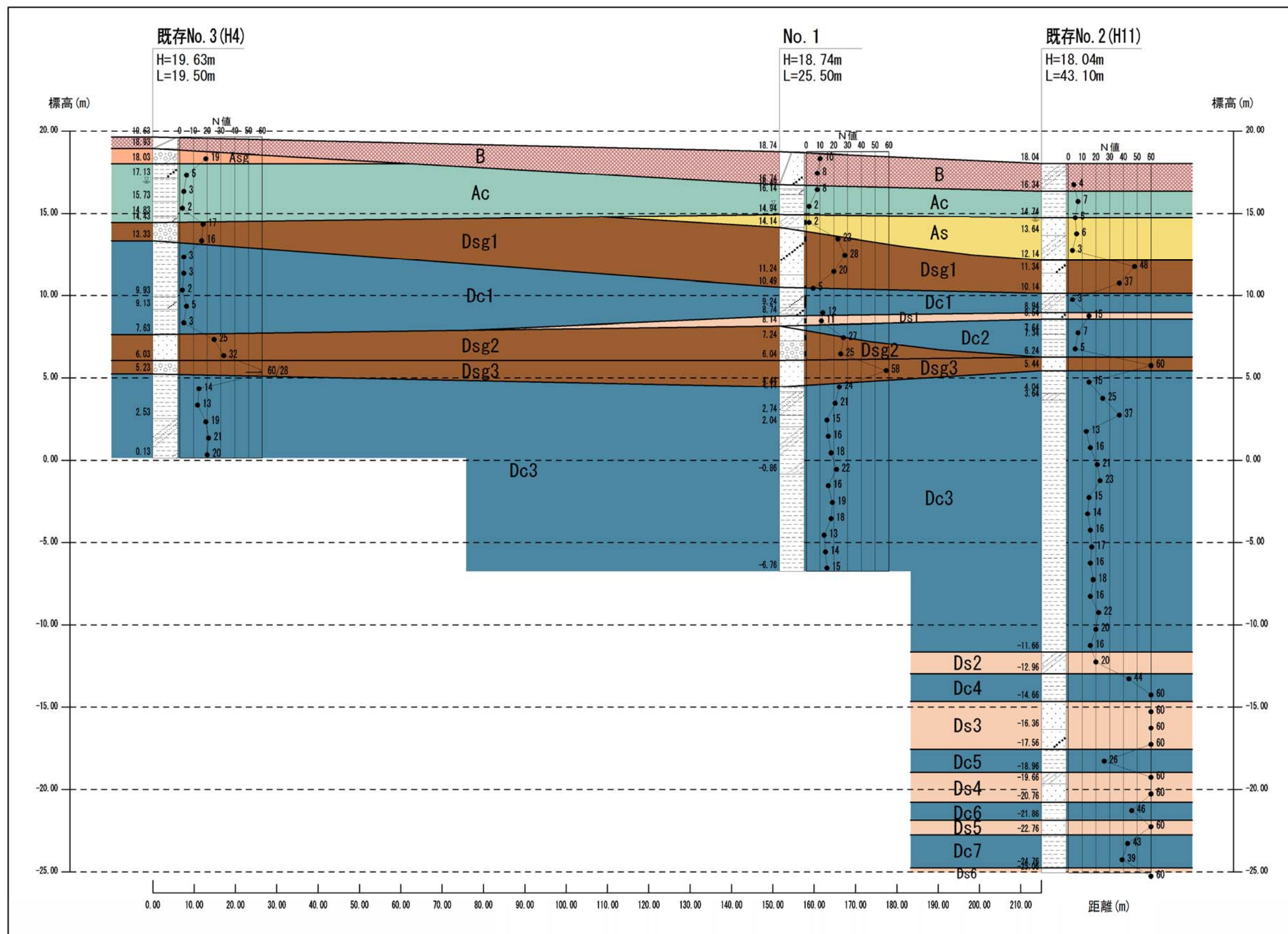
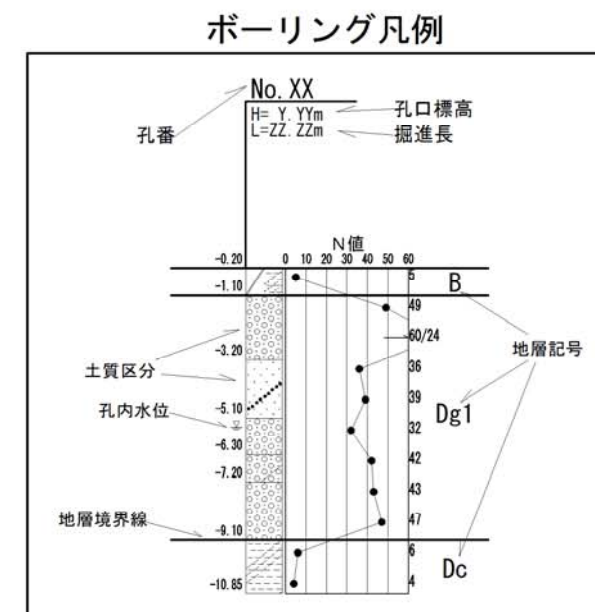


図 4.1.1 推定地層断面図 (A-A') (H=1:1,000 , V=1:250)



地層記号凡例

地質時代	地 層 名	地層記号
現 世	盛 土	B
完 新 世	沖積粘性土層	Ac
	沖積砂質土層	As
	沖積砂礫層	Asg
更 新 世	洪積粘性土層	Dc
	洪積砂質土層	Ds
	洪積砂礫層	Dsg

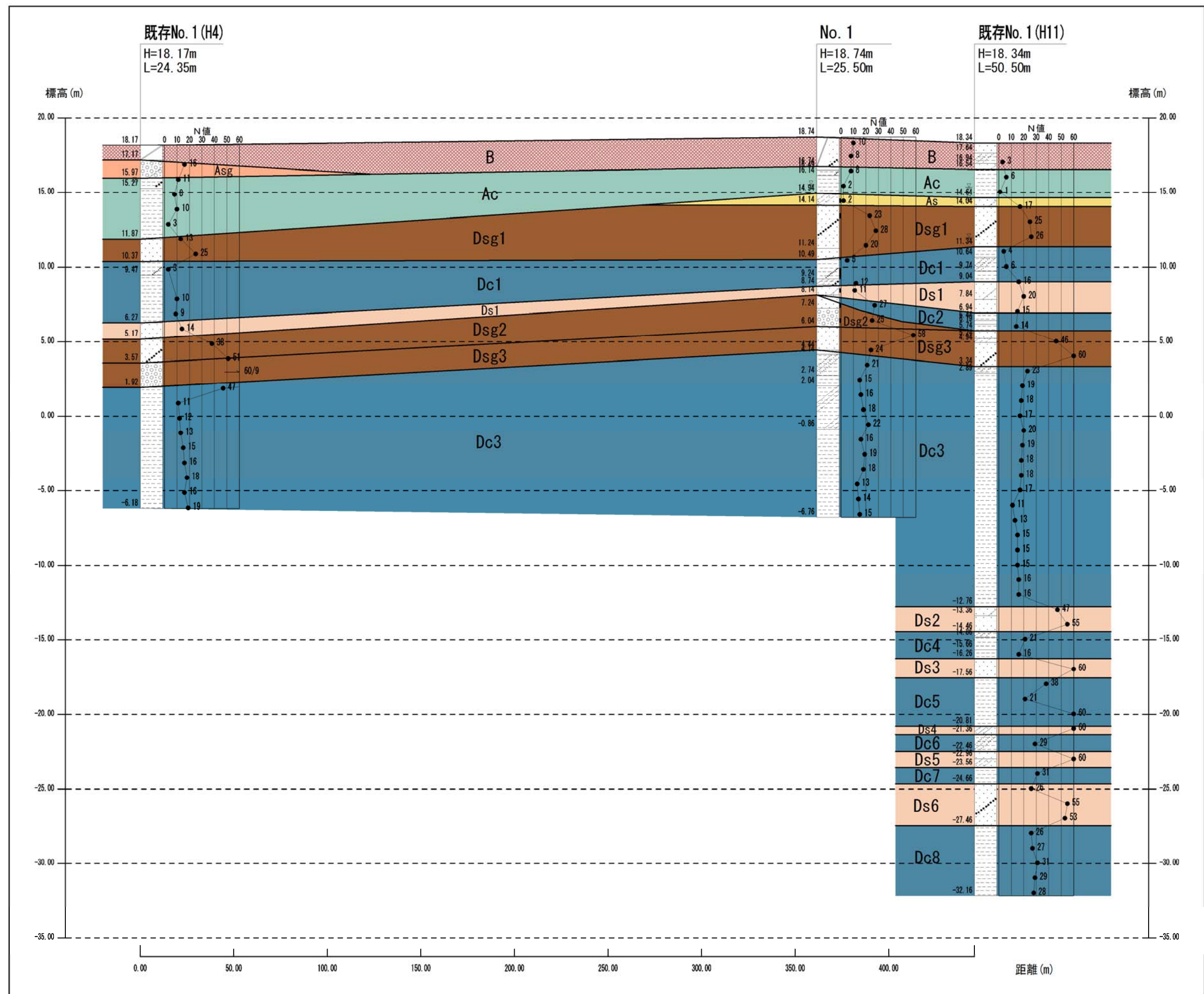


図 4.1.2 推定地層断面図 (B-B') (H=1:2,000 , V=1:250)

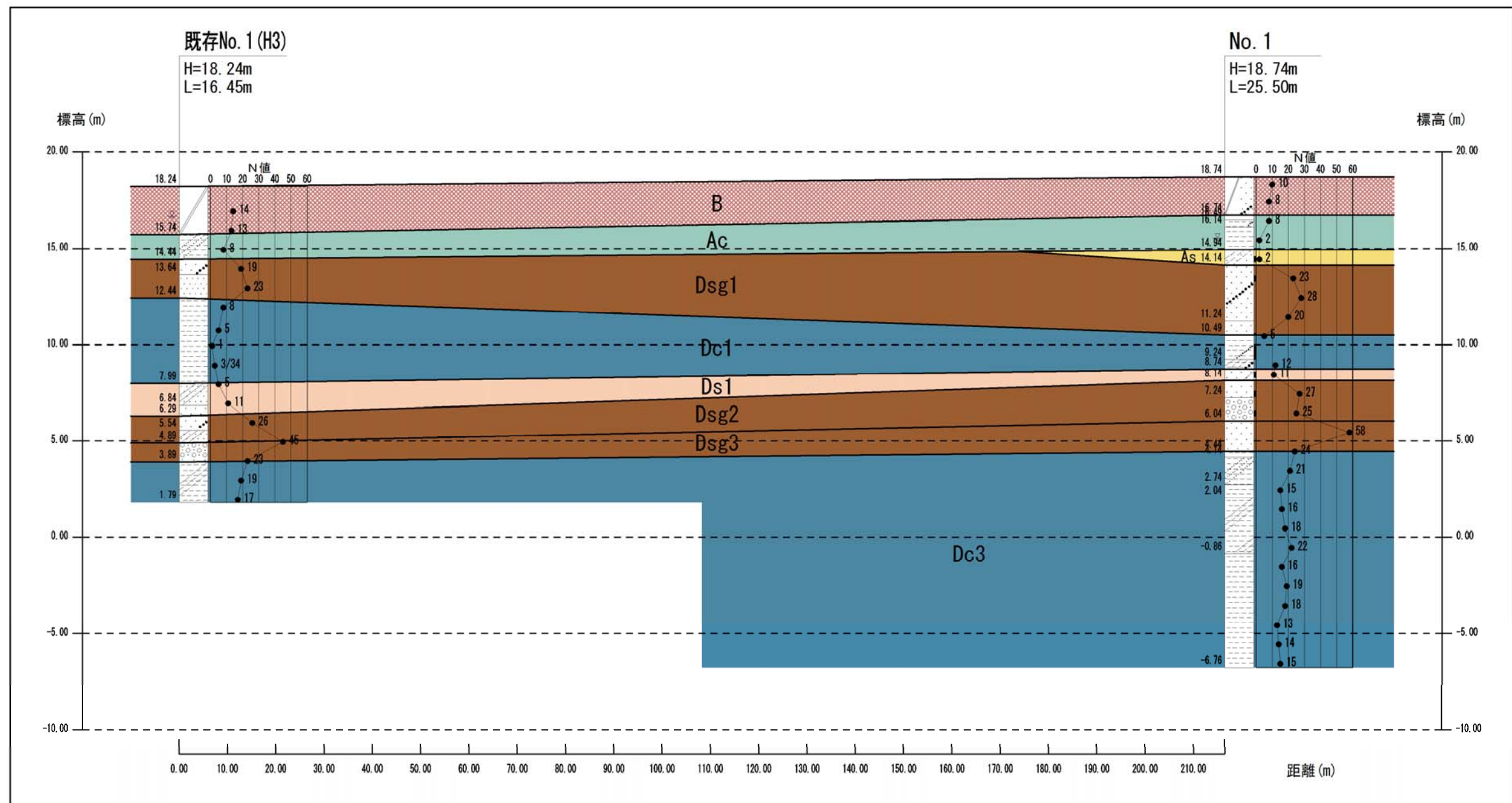


図 4. 1. 3 推定地層断面図(C-C') (H=1:1,000 , V=1:250)

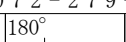
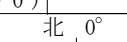
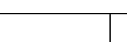
ボーリング柱状図

調 査 名 泉北水再生センター1系水処理送風機設備地質調査業務

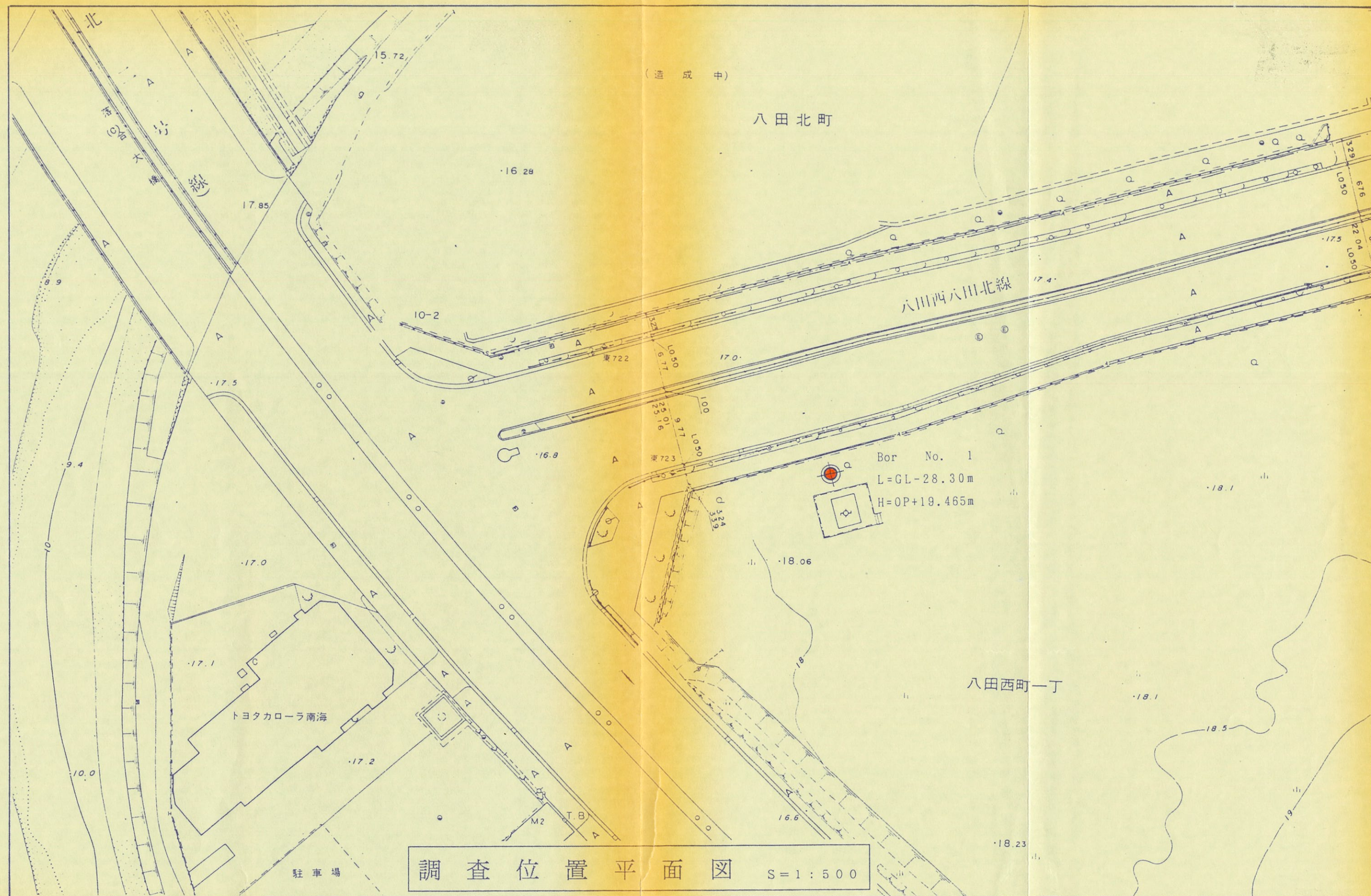
[illegible]

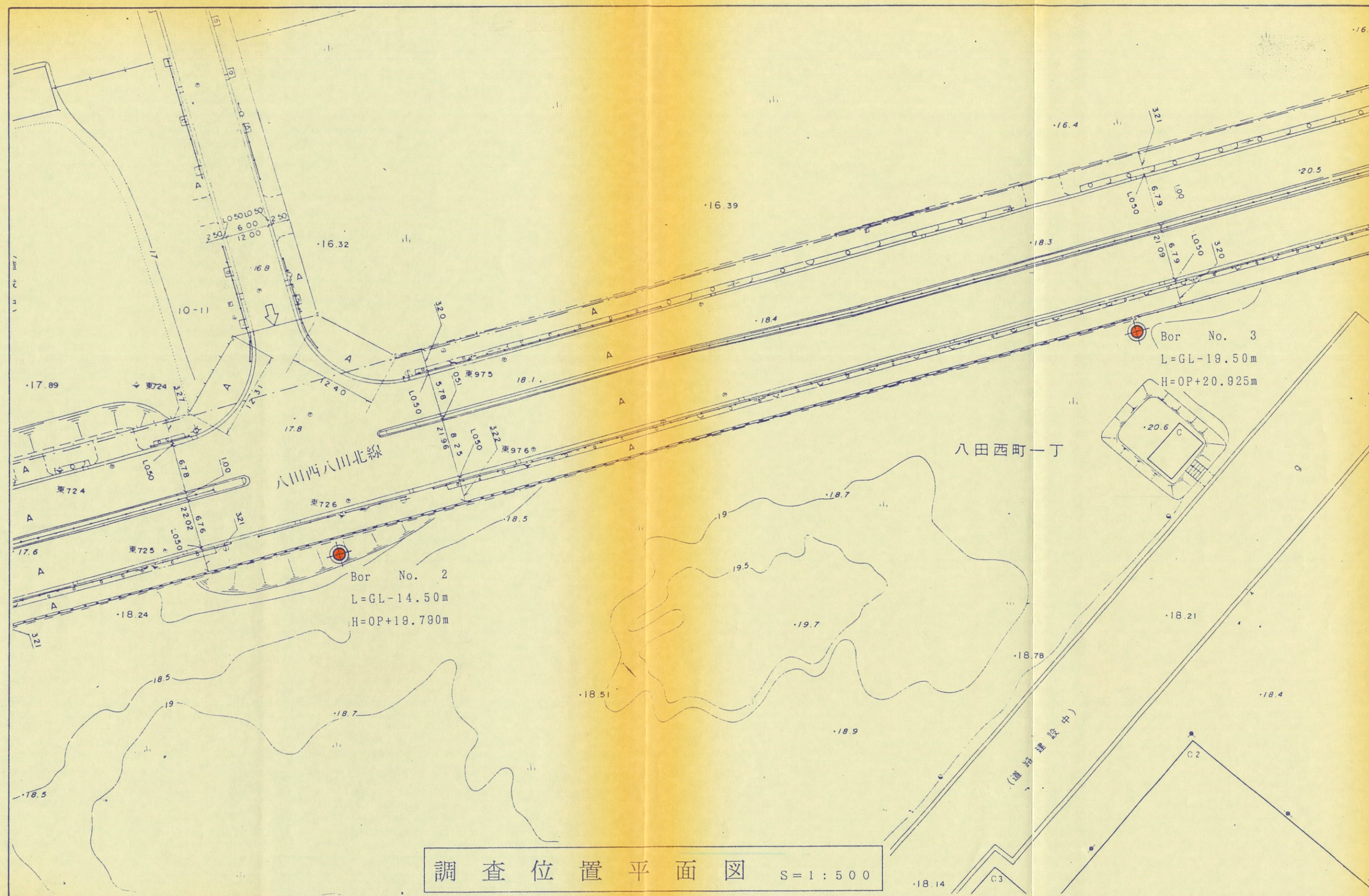
事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 1			調査位置		堺市中区八田西町1丁2番1号					北緯				
発注機関	堺市上下水道局 下水道部 下水道施設課					調査期間	平成 29年 12月 11日 ~ 30年 3月 20日					東経			
調査業者名	株式会社 関西地質調査事務所 電話 (072-279-6770)			主任技師	久保下 隆文		現場代理人	久保下 隆文		コ鑑定者	久保下 隆文		ボーリング責任者	田倉 和則	
孔口標高	H=18.74m	角  度	方  向	地盤勾配  鉛直	使用機種	試錐機				YBM-05		ハンマー落下用具	半自動落下装置		
総掘進長	25.50m					エンジン				YANMAR NFAD7		ポンプ	KANO V5-P		

[illegible]





ボーリング柱状図

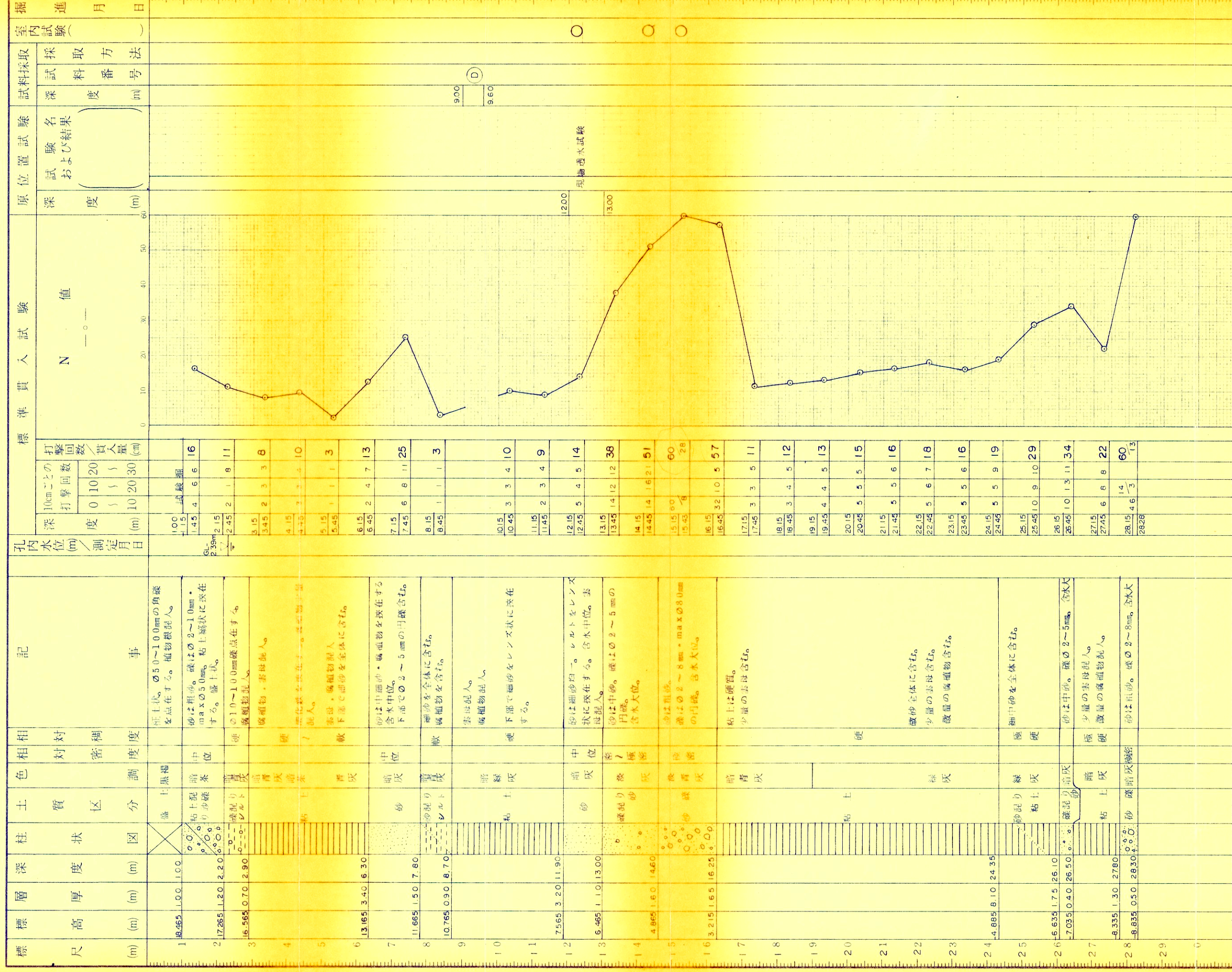
調査名 東北処理区土質調査業務その1

ACIC 様式Ge 201

事業・工事名

シート No. 10

ボーリング名	NO. 1	調査位置	堺市八田北町也 equal 先	北緯	°
発注機関	堺市下水道部	調査期間	平成4年1月30～2月4日	東経	°
調査業者名	株式会社 興陽ボーリング 電話 (06-351-1590)	主任技師	信田茂雄	ボーリング責任者	延野正道
孔口標高	OP+ 19.465 m	方角	北 10° 270° 西 180° 南 90° 東	ハンマー落下用具	コーンプーリ
総掘進長	28.30 m	度	地盤分配 鉛直 水平	エンジン	試錐機
				ヤンマーダイゼルス NS 75	ポンプ
				KOKEN, KF-100	ハンマー落下用具
				コ定者	ア
				山口秀彦	信田茂雄
				調査者	ア
				平成4年1月30～2月4日	信田茂雄
				調査期間	信田茂雄
				現場代理人	ア
				試錐機	ハンマー落下用具
				エンジン	ポンプ
				ヤンマーダイゼルス NS 75	試錐機内蔵
				KOKEN, KF-100	ハンマー落下用具
				コ定者	ア
				山口秀彦	信田茂雄
				調査者	ア
				平成4年1月30～2月4日	信田茂雄
				調査期間	信田茂雄
				現場代理人	ア
				試錐機	ハンマー落下用具
				エンジン	ポンプ
				ヤンマーダイゼルス NS 75	試錐機内蔵



柱状図および土質区分

[illegible]

第2分類

区分	分類名	図例
掘	砂	
	シルト質 (M)	
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
	火山灰質 (V)	
助	土石混り (B)	
	砂利、礫混り (G)	
記	砂混り (S)	
	シルト混り (M)	
号	粘土混り (C)	
	有機質土混り (O)	
	火山灰混り (V)	
	貝殻混り (Sh)	

第 3 分類

区分	分類	名	図例
岩石	硬岩	岩(HR)	
	中硬岩	岩(MR)	
		軟岩、風化岩(WR)	
	材料		
土	土	土(B)	
	浮石	浮石(Pm)	
	シラ	ス(Si)	
	スリ	ア(Sa)	
土	火山灰	灰(A)	
	ロ	ム(Lm)	
	黒土	ク(Kb)	
	マ	サ(WG)	
土	土	土(Ss)	
	土	土(FI)	
土	土	土(W)	

試料採取方法

- ① シンヴォールサンフラーによる
② デニソンサンフラーによる
③ 慣入試験器による
④ フォイルサンフラーによる
⑤ ()による

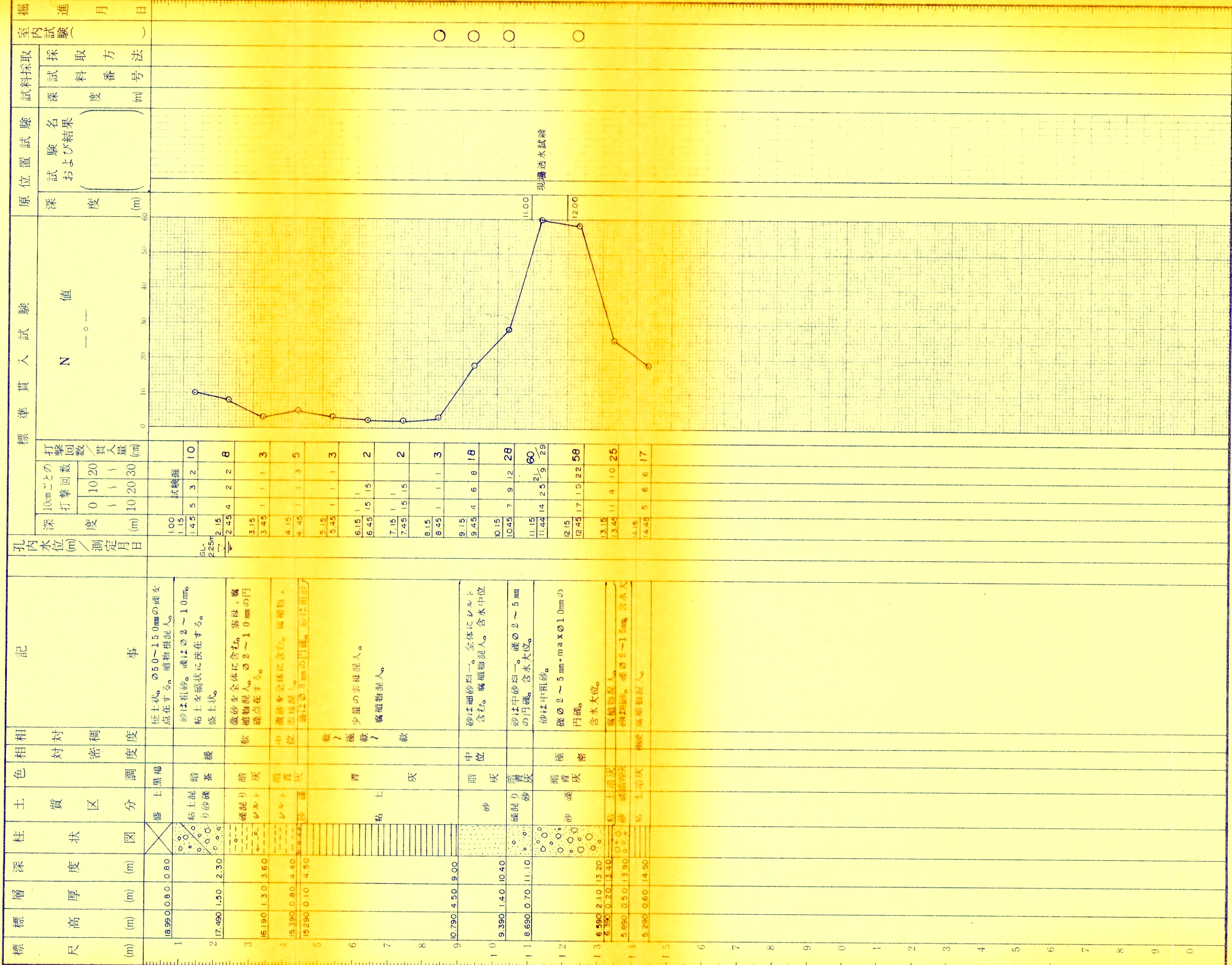
備考

ボーリング柱状図

調査名 泉北処理区上質調査業務その1

事業・工事名

ボーリング名	NO.2	調査位置	堺市八田北町他地先
発注機関	堺市下水道部	調査期間	平成4年1月28日～1月30日
調査業者名	株式会社 興陽ボーリング (06-351-1590)	現代理人	山田秀彦
孔口標高	OP+19.790m	試験機	KOKEN.KT-100
総掘進長	14.50m	エンジン	ヤンマーダイゼルNS75
		使用機種	ポンプ
		地盤勾配	水平0°
		方位	北10° 90° 180° 270° 360°
		角	上 下 0° 90° 180° 270° 360°
		度	
		北緯	
		東経	
		ボーリング責任者	延野正道
		コーンブーリー	
		試験機内蔵	



凡例 柱状図および土質区分

区分	分類名	図例
土質	礫 (G)	○ ○ ○ ○
	礫質土 (GF)	○ ○ ○ ○
	砂 (S)	● ● ● ●
	砂質土 (SF)	● ● ● ●
材料	シルト (M)	— — — —
	粘土 (C)	— — — —
	有機質土 (O)	— — — —
	火山灰質粘性土 (V)	— — — —
材料	高有機質土 (腐植土) (Pe)	— — — —
	火山灰質粘性土 (V)	— — — —
	有機質土 (O)	— — — —
	粘土 (C)	— — — —

区分	分類名	図例
補助	砂 (S)	○ ○ ○ ○
	シルト質 (M)	— — — —
	粘土質 (C)	— — — —
	有機質 (O)	— — — —
補助	火山灰質 (V)	— — — —
	玉石混り (B)	— — — —
	砂利、硬混り (G)	— — — —
	砂混り (S)	— — — —
記号	シルト混り (M)	— — — —
	粘土混り (C)	— — — —
	有機質土混り (O)	— — — —
	火山灰混り (V)	— — — —
記号	貝殻混り (Sh)	— — — —
	貝殻混り (Sh)	— — — —
	貝殻混り (Sh)	— — — —
	貝殻混り (Sh)	— — — —

第 3 分 類		
区 分	分 類 名	図例
土 質	硬 岩 (H R)	— — — —
	中 硬 岩 (M R)	— — — —
	軟 岩、風 化 岩 (W R)	— — — —
	土	— — — —
特 殊 土 材	浮 石 (軽 石) (P m)	△ △ △ △
	シ ラ ス (S i)	△ △ △ △
	ス コ リ ア (S c)	△ △ △ △
	火 山 灰 (V a)	△ △ △ △
材 料	ロ ー ム (L m)	△ △ △ △
	黒 土 (K b)	△ △ △ △
	サ (W G)	△ △ △ △
	土 (S s)	△ △ △ △
地 盤	土 (F i)	△ △ △ △
	地 盤 物 (W)	△ △ △ △

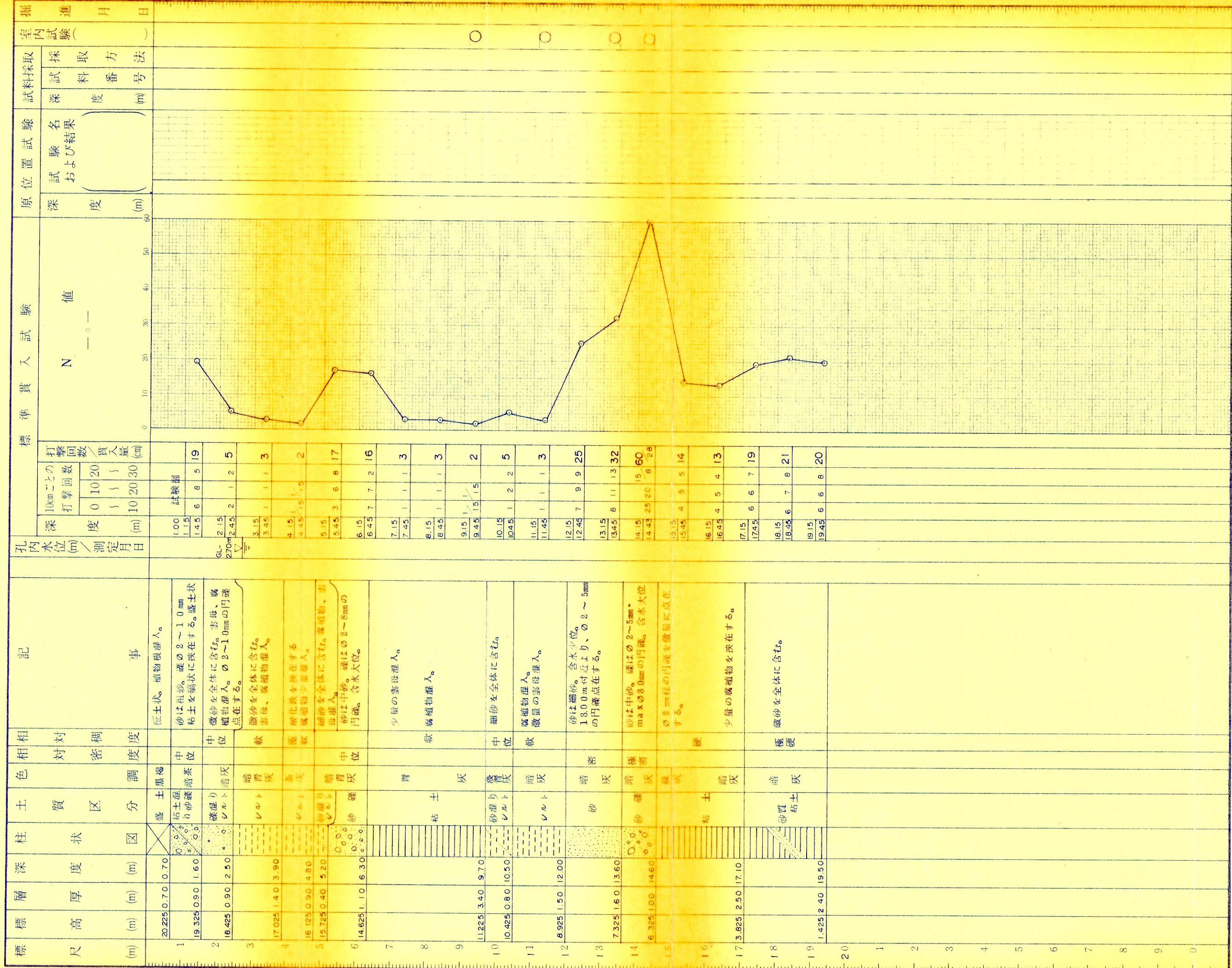
ボーリング柱状図

調査名 泉北処理区土質調査業務その1

JQC 様式 Ge 201

事業・工事名

ボーリング名	NO. 3	調査位置	堺市八田北町他地先	シートNo.	北緯	東経
発注機関	堺市下水道部	調査期間	平成4年11月27日～11月28日			
調査業者名	株式会社 興陽ボーリング 電話 06-351-1590	現代理人	山口秀彦	コ定者	ア	延野正道
孔口標高	OP+20925 ^m	試験機	KOKEN KT-100	ハンマー	落下用具	コーンブーリ
総掘進長	19.50 m	エンジン	ヤンマーダイゼルNS75	ポンプ		試験機内蔵



凡例

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図例
土質	硬 (G)	● ● ● ●
	硬質土 (GF)	● ● ● ● ● ●
	砂 (S)	● ● ● ● ● ●
	砂質土 (SF)	● ● ● ● ● ●
材料	シルト (M)	-----
	粘性土 (C)	
	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (V)	
材料	高有機質土(腐植土) (Pt)	

第2分類

区分	分類名	図例
土質	砂 (S)	
	シルト質 (M)	
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
土質	火山灰質 (V)	
	粘土混り (-B)	
	砂利、礫混り (-G)	
	砂混り (-S)	
土質	シルト混り (-M)	
	粘土混り (-C)	
	有機質土混り (-O)	
	火山灰混り (-V)	
土質	貝殻混り (-Sh)	

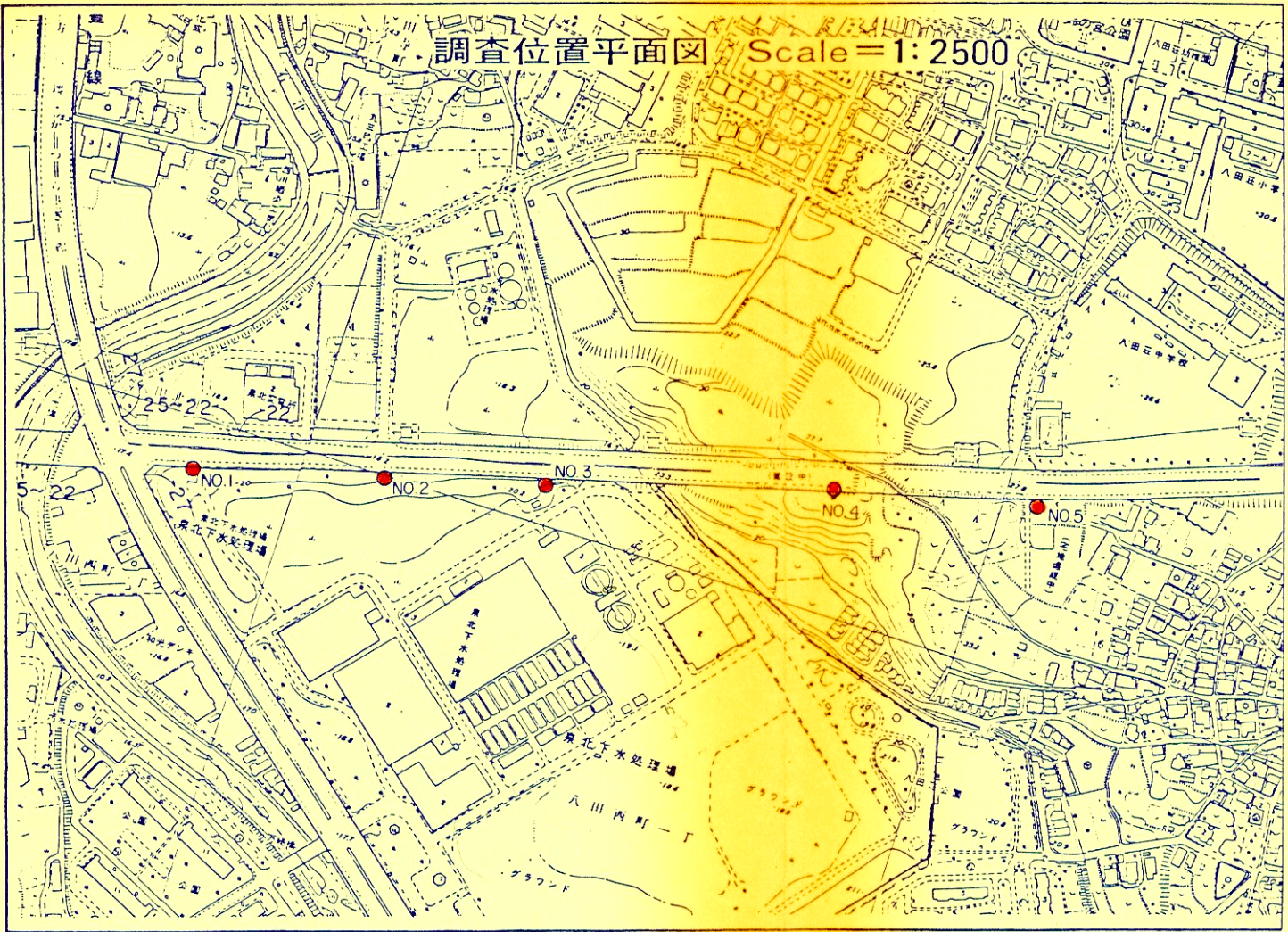
第3分類

区分	分類名	図例
土質	硬 (HR)	
	中硬 (MR)	
	軟弱、風化岩 (WR)	
	主 (B)	
土質	浮石 (軽石) (Pm)	
	シラ (S)	
	ス (S)	
	火山灰 (VA)	
土質	ロー (Lm)	
	黒 (Kb)	
	サ (WG)	
	土 (Ss)	
土質	土 (F)	
	底 (W)	

備考

試験採取方法

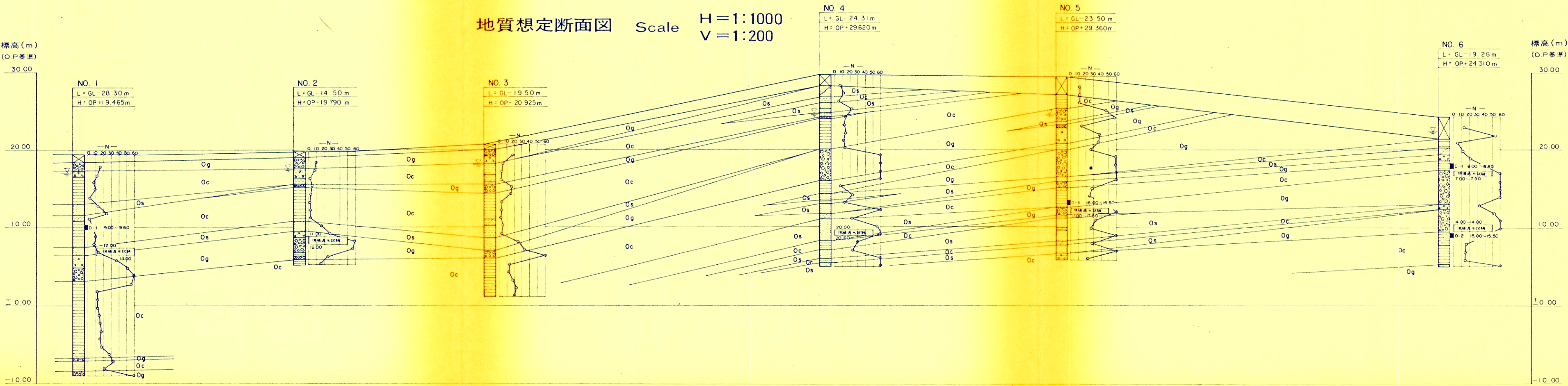
- ① シンウォールサンフラーによる
- ② デニゾンサンフラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンフラーによる
- ⑤ () による



凡例

地質年代	地層名	土質	記号	着色	土質概要	N値
沖積世	表土・盛土	混合土		灰色	最表層を占める土層で、厚さ0.7~2.4mを示すがNO.6地点では、厚さ2.8mで、瓦礫・灰殻を多く含むが、一般には粘土・砂及び濘のごく少ない状態の混合土で基盤～黒褐色を示す。	5~20 (N>20は機打撃による過大値)
洪積世前	大阪層群上部(泉北累層)	礫質土	Og	茶色	互層中の砂層・礫層の厚さは一般に1.0~3.5m程度であるが、NO.4・NO.6では1.2~4.5m、特にNO.9では6.5m・NO.1では9.5mを示す。礫次～珪質灰が多いが、基盤～直風の部分もある。N>5.0が普通、表層N<2.0。	表層N<2.0・約GL-10m以深ではN=3.0~6.0
		砂質土	Os	おうと色	互層中の砂の厚さは一般には、1.0~2.5mで粗～中粒砂が主体である。所見～粗粒砂色であるが、表層は黄褐色。細砂中には粘土層りもある。GL-10m以深ではN<2.5が一般で、以深ではN=3.0~6.0。	表層N<2.5・約GL-10m以深ではN=3.0~6.0
		粘性土	Oc	赤の緑色	NO.1では約1.1m・NO.2・NO.5及びNO.13では約7mの厚さであらわれるが、その他の地点では大体1m未満～3m(時に4~5m)で礫次してあらわれる。礫次～珪質灰が一般で珪質のものもある。表層のものはN<5となることが多いが一般にはN>8で特にGL-2.0m以深では半固前状のものが多い。	表層N<5・約GL-10m以深ではN=8~>20

地質想定断面図 Scale H=1:1000 V=1:200



公 共 下 水 道 事 業			
工事名称	泉北処理区土質調査業務その1		
工事場所	大阪府堺市八田北町、他地先		
図面名称	地質想定断面図	1/3 縮尺	H=1:1000 V=1:200
工 期	自、平成3年3月11月26日 至、平成4年3月31日		
調査機関	株式会社 興陽ホールリンク		
堺 市 下 水 道 部			